



2019年4月22日

一般社団法人 環境 DNA 学会

環境 DNA 技術の普及を目指し、標準版 「環境 DNA 調査・実験マニュアル」を公開します

報道機関 各位

一般社団法人 環境 DNA 学会（事務局：滋賀県大津市 龍谷大学 生物多様性科学研究センター 内、代表理事 近藤倫生）¹⁾ は、環境 DNA 技術の普及と健全な発展を促すため、標準版「環境 DNA 調査・実験マニュアル」を作成・公開する運びとなりましたのでお知らせ致します。

環境 DNA 技術²⁾は水や土壌など環境中に存在する DNA を用いて生息種や生物量などを推定する新しい技術です。日本での研究がこの技術の誕生・発展に大きな役割を果たしました。直接生物を捕まえることなく「バケツ一杯の水」のみで生物調査が可能な画期的技術として、生物多様性保全や生物資源管理分野などへの貢献が世界的に期待されています。外来生物の分布拡大や絶滅危惧種の問題、生物資源の持続的利用の重要性が連日のように報道される今日、日本国内でもこの技術に基づく生物調査の効率化・高精度化を実現するため、標準化された調査・実験マニュアルの作成が急務となっていました。

環境 DNA 技術標準化委員会（委員長 源利文）³⁾には、環境 DNA 研究の第一線で活動する研究者が加わり、本マニュアルの準備を進めて参りました。当学会が期待するのは、環境アセスメントや水産資源管理の現場で有益に利用できる質の高い分析が広く普及することです。マニュアル作成にあたっては実効性を重視し、関連省庁からもご意見を伺いながら推敲を重ねました。105 ページにも渡る本マニュアルでは、環境 DNA 調査・実験に必要な、「調査地の選定」、「採水および濾過」、「DNA の抽出・分析」の手順について、写真や参考文献等を交えつつ詳細に解説しています。このマニュアルを利用することで、河川、湖、海といった様々な環境に統一的な手法で環境 DNA 分析を実施することができ、これまでの一般的な生物調査でありがちな調査者の違いによる分析結果の違いなどを根本的に解消することが可能となります。

本マニュアルは、学会ホームページ（<http://ednasociety.org>）において公開されます（2019年4月25日）。このマニュアル公開により、「環境 DNA 分析ではどのような注意をもって試料が採取され、どう分析されるのか」に関する実務的な理解を深めていただけるものと期待しています。学会では今後、日本各地において開催する技術セミナー等を通じて本マニュアルの紹介や解説を積極的に実施していきます。このマニュアル公開を機に環境 DNA 技術がさらに広く普及し、世界的な問題となっている生物多様性の保全や管理に大きく貢献することを願っています。

1) 一般社団法人 環境 DNA 学会 一般社団法人環境 DNA 学会は、環境 DNA 学を生態系の持続的利用や環境保全など、人類全体の幸福に資する学問分野として育成、発展させることを目的として、2018 年 4 月に設立された学会です。学会は、環境 DNA 技術・観測に関わる基礎・応用研究の促進、環境 DNA 技術の標準化と社会実装、さらに環境 DNA 観測から得られる生物情報の管理と利用法の研究等の幅広い関連分野で、責任ある中心的役割を果たしていきます。会員数は一般会員 218 名、学生会員 62 名、賛助会員 33 社 (2019 年 4 月現在)。

2) 環境 DNA 技術 水中、土壌中、空気中には、そこに生息している生物由来の DNA (デオキシリボ核酸) が存在しています。その DNA を総称して環境 DNA (environmental DNA, eDNA) と呼びます。環境 DNA を採取し分析することで、生物の存在や生物量・個体数、さらには遺伝情報などの膨大なデータを得ることが可能となってきました。この技術発展には日本における研究が重要な役割を果たしてきました。

3) 環境 DNA 技術標準化委員会 環境 DNA 技術標準化委員会は、環境 DNA 技術の普及や標準化に必要な議論を進めることを目的として 2018 年 2 月に環境 DNA 学会に設置されました。構成委員は以下の通り：

委員長	源 利文	神戸大学大学院人間発達環境学研究科
委員	近藤 倫生	東北大学大学院生命科学研究科
	清野 聡子	九州大学大学院工学研究院
	高原 輝彦	島根大学生物資源科学部
	土居 秀幸	兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科
	中村 圭吾	土木研究所水環境研究グループ
	宮 正樹	千葉県立中央博物館 生態・環境部
	山中 裕樹	龍谷大学理工学部

報道関係者のお問い合わせ先

荒木 仁志 (北海道大学大学院 教授) 環境 DNA 学会 学会広報担当理事

E-mail: arakih@res.agr.hokudai.ac.jp

TEL 011-706-3893

源 利文 (神戸大学 准教授) 環境 DNA 学会 環境 DNA 技術標準化委員会 委員長

E-mail: minamoto@people.kobe-u.ac.jp

TEL 078-803-7743

一般社団法人環境 DNA 学会事務局

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学内

E-mail: office@ednasociety.org

環境 DNA 学会主催「環境 DNA 調査・実験マニュアル」公開記者レク

日時 2019年4月25日(木) 13:00～

場所 東北大学東京分室

上記の通り記者レクを行います。環境 DNA 技術とは何か、環境 DNA 調査・実験マニュアルの役割、このマニュアル公開の波及効果等について配布資料とともに解説します。参加を希望される方は4月24日13時までに、<https://customform.jp/form/input/30578/?key=0445188f> のフォームからお申し込みをいただきますと幸いです。ご出席いただけない場合も、ご要望があれば記者レク後に配布資料を提供いたしますので、同じフォームからお知らせください。

会 場



【所在地】東京都千代田区丸の内1丁目7番12号サピアタワー10階

【会場連絡先】03-3218-9612

【交通機関】新幹線東京駅日本橋口-徒歩1分 東京駅八重洲北口-徒歩2分